

2019 年度 第7回理事会議事録

日 時:2020 年1月 18 日(土)13 時 00 分～15 時 45 分

場 所:ホテルセントパレス倉吉

出席者:湯田範規、岡田早苗、藤原弘光、先灘浩功、片岡憲一、中井宏衛、長谷川利恵、黒田誠、遠藤由香利、橋本祐樹、山本寿恵、藤原京子、藤井和晃、北野岳之(外部監事)

[出席:14 名/20 名中]

欠席者:那須野邦彦、下廣 寿、木下敬一郎、青戸俊輔、田中雅彦、山岡貴子

議 長:湯田範規 書 記:藤井和晃

議事録署名人:橋本祐樹、遠藤由香利

一般社団法人鳥取県臨床検査技師会定款第5章第 29 条により理事会を招集し、定款第 5 章第 31 条により理事会が成立した

議事

議題 1 2020 年度事業計画について(黒田学術部長)

形態検査部門 3 回、生物化学部門 2 回、生理機能検査部門 4 回、感染制御部門 2 回、移植検査部門 3 回、総合管理部門 2 回を予定。

鳥取県医学検査学会 10 月 4 日(倉吉市)、ステップアップ研修会 7 月 19 日(倉吉市)、けんさしつ発行 2 回、精度管理調査を予定。

日臨技助成金 2020 年度から 3 万円+500 円×参加人数(上限 5 万円)になる。できるだけメーカー主導ではない研修会を開催していただきたい。(岡田副会長)

議題2. 事業予算、補正予算について(片岡財務部長)

管理費 パソコン2台、エアコン 1 台 予算が大幅に超えた。精度管理事業が出てから補正予算をする。予算 雑収入が増益となったが来年度は不明のため 1 万円のままとする。支出は今年度と同様に組む。プロジェクター更新分を 20 万円、その他に消耗品費 10 万円とした。プロジェクターは学術部で検討。宮島セミナーは当会に2枚購入の依頼。今後 2 枚ずつ購入していかなければならない可能性がある。

涉外調査部計画について、健康展を倉吉で予定しているが、集客を考えると鳥取か米子のほうがよいのではないか。同じく、賀詞交歓会もできるだけ会員に参加してもらおうよう会場を回しているが、会員の参加が少ない。鳥取、米子で開催してはどうか(湯田会長)

議題3. 研修会補助金制度について(黒田学術部長)

3 名から申請。災害派遣技師研修会 1 名、中四国支部染色体・遺伝子ハンズオン研修会 2 名 **【承認】**令和 2・3 年度中四国支部染色体・遺伝子検査部門研修会を鳥取県が担当する。

伝達講習会を開催しなければならないが、その予定はどうなっているか。(藤原副会長)

災害派遣技師研修会の伝達講習会は、ステップアップ研修会で行う。(黒田学術部長)

染色体・遺伝子検査部門が立ち上がってから、染色体・遺伝子ハンズオン研修会の伝達講習をしてもらう。

日程だけは決める。

議題4. 日本医学検査学会(4/25～26) 一般演題座長推薦依頼について(黒田学術部長)

4名の推薦依頼があり、免疫 福田技師(日赤)、生理 澤田技師(県中)、管理 岡田副会長。
病理 遠藤理事(鳥大)を推薦、学会に提出済【承認】

議題5. 鳥臨技・島臨技合同 総合管理部門研修会 費用について(藤原副会長)

日臨技推進事業 73,000 円、負担金 120,487 円。島臨技に折半として、60,244 円を請求する【承認】

議題6. 検査研究部門運営規程の改定について(藤原副会長)

染色体・遺伝子検査部門を立ち上げるため、細則等を変更する必要がある。中四国支部の部門編成に合わせて(鳥取県は日臨技に合わせている)。

(案)生物化学、臨床一般、臨床血液、臨床微生物、輸血細胞治療、病理細胞、染色体・遺伝子、
臨床生理、臨床検査総合部門に分け、臨床一般、臨床血液、病理細胞は、現分野リーダーが部門長になる【決定】

部門編成を変更した場合は日臨技登録の際、注意が必要。

部門長、分野リーダーには学術部長から説明。総会にて会員には説明する。【決定】

議題7. 事業共催・協賛・後援申請書について(藤原副会長)

規程等がないが、申請書を作成し次回の理事会にて再度提示する。

議題8. 企画提案書について(藤原副会長)

企画・提案書を作成し、事業計画にないものに対し申請のみに使用する。経費が必要なものは後から予算書等を提出してもらい流れとしたい。次回の理事会にて再度提示する。

議題9. 鳥取県臨床検査精度管理調査に関する報告事項

薬局の検査結果(HbA1c)について、データは問題なく、収束していた。来年度参加されても問題ないと考えられる。今後については次回理事会にて検討する。

議題 10. プロジェクターの更新について(藤原副会長)

2020 年度学術部予算にて申請する。

議題11. 事務員の時給について(藤井事務局長)

全国平均は今年度 901 円に上がった。賃金を 4 月から時給 930 円とする。【決定】

議題12. 細胞検査士会からの精度管理調査写真の使用許可について(藤井事務局長)

具体的な資料等がでていないので、提出してもらい、理事会にて諮る。

精度管理調査のデータについて帰属がどこにあるのか、決めたほうがよい(藤原副会長)

鳥臨技に帰属させてもらえるよう精度管理委員会にて医師会に話をする(湯田会長)

議題13. 災害時の対応について(藤井事務局長)

災害時マニュアルを事務局中心に鳥取県版を作成するとともに、県との災害時協定をすすめていくよう準備する【決定】

議題14. 中四国支部連絡会議について(湯田会長)

検体診断薬の購入について、ランチョンセミナーを実施しているのに予算計上されていない。日臨技の入会時、都道府県技師会に必ず入会することとなった。

支部学会の発送物は日臨技から配送ではなく、支部予算でおこなうべき などの報告がされた。

議題15. 世界禁煙デー参加について(片岡財務部長)

医師会、看護協会、薬剤師会等と同様、当会も参画していったほうがよいのではないかと。

派遣は3名くらい 午後1時～3時 肺活量測定を行う 40～50名の受検者。

渉外調査部が担当し、参加するようにする。【決定】

議題16. 子宮頸がん啓発活動 LOVE49 への寄付について(藤井事務局長)

今年度は見送ることとする。【決定】

議題17. その他

1. 日臨技理事候補推薦者について(湯田会長)

日臨技の定款が変更になり、各県から理事を1名推薦することになった。条件として、都道府県役職(会長・副会長)、生涯教育研修が近年5年以内の履修者、女性理事が望ましい、2期以上の就任が望ましい。

会長・副会長の中から推薦とする。【決定】

2. 鳥臨技役員の改選について(藤井事務局長)

選挙管理委員会と話しをしていく。現在理事の方は引き続き継続していただきたい。(湯田会長)

総会終了後の理事会にて会長・副会長を互選し、後日会員に書面にて報告する。【決定】

次回理事会:2020年3月15日(日) 10時～

以上をもって議事を全て終了し、15時45分に閉会した。

この議事が正確であることを証するため、議長および議事録署名人は次に署名、捺印する。

2020年2月4日

議長 湯田 範規 (印)

監事 北野 岳之 (印) _____ (印)

議事録署名人 遠藤 由香利 (印) 橋本 祐樹 (印)